



利用者さんのご家族から、
「他の施設に通っていた時には
嫌がっていたのに、こちらに変えて
からは喜んで通えるようになりました」
という声もよく聞きます。

野村 栄仁会には内科・精神科などの診療科があり、必要に応じてスムーズに連携できるので、私達にとっても利用者さんにとってもありがたい存在です。他のデイサービスに利用者さんが通いたがらず「通所拒否」に至るケースも結構あるんです。でも、やまぶきの郷ではスタッフが親身に関わり、短時間の利用からサービスを提供することによって、心を開いて下さるケースが多いように思います。

Q 利用者さんのご家族から、「他の施設に通っていた時には嫌がっていたのに、こちらに変えてからは喜んで通えるようになりました」という声もよく聞きます。一般的に難しいとされるケースであっても、栄仁会のさまざまな機能を活かして、利用者さんに必要なサービスを提供しています。

楽しみながら心身に働きかけるデイサービス

Q 最後に、認知症対応型通所介護を行っている「デイサービスでんでんむし」です。変わった施設名ですが、何か由来が？

檜皮 開設当時の責任者が、童謡の「かたつむり」の歌詞からつけました。「角だせ、槍だせ、頭だせ」という歌詞がありますよね。認知症の方は自宅にこもりきりになってしまいうケースもあるので、でんでんむしに「角だせ、槍だせ、頭だせ」と呼びかけるように、「もつとどんだん家の外に出て、楽しみませんか？」という思いで接していくこうと、そんな意味合いを込めてつけたようです。

施設名に込めたその思いのとおり、うちは他のデイサービスに比べて、外に出ての運動機会をしっかりと確保している点が大きな特長です。歩くことは全身運動になりますし、段差や曲がり角、車の行き来などに注意して歩いたりすること自体が、脳への刺激になります。運動能力と認知機能を保つためのよい訓練になるのです。

そういうことができるのは、一般のデイサービスに比べてスタッフが多いためでもあります。利用者の定員20名に対して、スタッフは最低でも8名程度は常駐しています。これはかなり手厚い体制で、その分だけ一人ひとりにゆとりや関わるることができます。

Q それ以外に、施設のアピールポイントを挙げるとすれば？

檜皮 季節行事を大切にしていることが挙げられます。餅つき、水無月（京都の和菓子）づくり、初詣など、季節ごとにある行事を行っています。季節行事はよその施設にもあるでしょうが、うちはかなり力を入れているという自負があります。たとえば、臼と杵を使った餅つ

きは、他の施設さんではあまりやっていないと思います。
Q 本格的な餅つきなのですね。

檜皮 はい。ですから、新しく入ってきた職員は「初めて餅つきをする」というケースが多いんです。利用者さんのほうが毎年餅つきを経験しているので、むしろ職員がやり方を教えてもらったりしています（笑）。

認知症が進むと季節に対する感覚も薄れてしまい、たとえば真夏でも厚着をしていたりする人がよくいます。季節行事を行うことで、利用者さんにとっても季節を感じてもらいたいという思いもあります。

あとは、利用者さんに農家の方が多いこともあって、市民農園を借りて農作業をすることも、プログラムとして取り入れています。季節の野菜を作ったりするのでそれも広い意味では季節行事の一端と言えるかもしれません。

『でんでんむし』という
ユニークな施設名には
「どんだん家の外に出て、
楽しみませんか？」という
思いが込められています。

